

報 會

ち ちから
静岡市相撲連盟
会 長 川上明廣
事務局 村越浩二
平成 30 年 10 月
3 7 3 号

静岡相撲部OBちから会
昭和 30 年 ちから会創立
昭和 39 年 11 月 初刊
会 長 細倉涼太
事務局 大江弘文

☆忘年会のお知らせ!

開催日時 H30年12月8日(土)
開催場所 ホテルセンチュリー静岡・6階ラベндаー
申込締切日 12月4日(火)
開催時間 18時30分〜20時30分
会 費 男性 7000円
女性 5000円

出欠連絡先 村越浩二 090・4197・1990
小林直樹 090・3448・4496
大江弘文 054・281・2801

☆ SEISHOS HEROES

先月号の静岡同窓会関西支部の富阪誠二さんの文章で、夏の甲子園大会の開会式で皇太子殿下が「高校野球に初めて関心を抱いたのは、50回大会の決勝戦の静岡対興国高の対戦でした。」と静岡の名が全国に披露された旨の掲載がありました。三十年程前、天皇皇后両陛下が来静した折、市役所内で県知事、静岡市長をはじめ市幹部との歓談の中、突如皇后陛下美智子様は「静岡では静岡商業という野球の強い学校がありました。が、今はどうでしょうか」と尋ねられた。同室していた市幹部の面々は興奮して言葉にはならなかったらしいが、この時、当時の天野進吾市長が「静岡は健在です。この夏の県大会では石川知事の出身校である掛川西高に決勝戦で惜敗しましたが、来年以降の期待が持てます。」と申し上げたという。この話をした野球部のOBも嬉しそうだったが、「皇后陛下はどうして静岡を知っていたのかなア」と一寸不思議がっていた。

私はそのOBに「昭和二十七年の選抜優勝校静岡は全国にも知られ、当時の全国の女子高校生にとっては憧れでもあったに違いない。美智子様も当時高校三年生だったから友達とも静岡の話をしたのではないだろうか。」と言ったら、「あゝそういうことだったかもしれないナ。」ということになった。

今年には静岡創立百二十周年と聞いているが、長い間に違った伝承も出てくる。校歌の第二章「朝芙蓉の精を吸い・・・」をいつの頃からこの芙蓉が「花の芙蓉」と説明されているようだ。元来この芙蓉は富士山の別名の芙蓉である。応援歌の中にも「芙蓉が峰がいや高し・・・」とうたわれているし、その根源には旧制

静岡商溪声俳句会

漁夫ひとり銀漢仰ぐ舫ひ船 岩崎 安次
山の湯に一際清し天の川 高橋 璋
朝露に笠しつとりと陶狸 加賀美 幸
虎杖の光の連珠や朝の露 名田 幸一
古道ゆくきに隠れし道祖神 佐藤 康紀
葡萄摘み露そのままに皿に盛る 永田 峰雄

山の寺すべて同姓枯尾花

牧田 秀峰

一高の寮歌にもある「芙蓉の雪の精をとり・・・」が基らしい。安倍城址へ行くと「芙蓉白雪放靈光」なる小さな石碑がある。

岩崎安次。

☆ 竹内正好さん(第63回孕)伊豆へ引越し!
9月20日頃、久しぶりに家に来てどうだ病気の具合は等世間話をしてたら、「大江10月3日に伊豆の稲取へ引越す事になった」と突然言い出し「永い間世話になったナ、会員皆さんに宜しく言つといてくれ」との事でした。又、手紙を預かりましたのでご紹介します。

永い間大変お世話になりました。この10月3日に東伊豆町に引越す事になりました。振り返れば全く相撲経験の無い私をたまたま加藤忠男君、故藤原秋義君と同級生という事で先輩方や後輩達が暖かく接して戴き、40年以上の永きに渡り「ちから会」の会員として又、麻雀党の党员として表現は悪いかも知れませんが居心地良く過ごさせて戴きました。

一番の思い出は、初めてのまわしを締めて相撲をとったのが20代の頃、八幡さんのお祭りの大会でした。何番とったかは忘れましたが、(そんな沢山ではない)翌日の朝、全身強烈な筋肉痛で自力で動かせたのは目ん玉だけ位という思い出です。相撲というスポーツがいかに全身のあらゆる筋肉を使っているかよく解りました。

この程、永年住み慣れた静岡市を離れ、東伊豆町へ引越す事になりました。長男が私共両親との二重生活を解消する為、漁師をしながら一緒に住むことを前提に、東伊豆町に居を構えました。私共夫婦とも色々話し合い、私共も10月より長男と生活する事にしました。これからはとつても残念ですが、皆様と会う機会が少なくなり、寂しくなると思いますが、伊豆方面といつても東海岸ですので、こちらからお越しの際は是非声をかけて下さい。

長い間本当に有難うございました。
なお引越す前に飲み会を開催する事を計画をしましたが急なことで予定が立たず断念した事を報告しておきます。

新住所 〒 41310303

静岡県賀茂郡東伊豆町片瀬563-4

竹内正好

携帯 090-1833-4131